

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	(有)アイシン グループホーム だいこんの花
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	岐阜県関市西神野605番地2
記入者名 (管理者)	野村周平
記入日	平成20年4月23日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしようという理念を掲げ、安心して暮らしていただけるよう理念を造り上げている	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず理念を伝え、年2回ほどの面談時にも確認し合っている 名札の裏にも理念が書かれている 毎月のミーティングでは、具体的なケア、見直しについて把握し統一をしている	職員の採用時やミーティングにて理念を伝え確認し合う
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	会議、イベントなどへの参加を促す 訪問時、行事、運営推進会議時に伝えたり、地域の方には隣の交流センターを通じて伝えている	会議、イベント、その他色々な形で家族、地域の方々との交流の場を増やしていきたい 町内の会合、地域の集まりやイベントの参加を今以上に積極的に行い、事業所の実践をつたえるようにしていきたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時のあいさつや会話を積極的に行っている 隣の喫茶店の方との日常的なつきあい、畑の作物の差し入れ等 畑、ビニールハウス等の地域の方との共有も行っている 行事などを決め、地域の人と共に交流を深め、良いおつきあいができるよう実施している	近所の人たちが立ち寄り、遊びに来てくださるよう取り組んでいきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の中学生との交流がある 声をかけていただいた行事等には可能な限り参加させていただいている(文化祭、食事会など) 老人会への参加も行っている	中学生による料理教室、焼き芋大会、クリスマス会、文化祭、夏祭り等 保育園、小学校など子供達と利用者との交流を図りたい 地域のリサイクル活動、行事などに参加していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			地域の様々な研修、会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組んでいる		外部評価の結果を踏まえ、具体的な改善に取り組んでいく
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、現あい取り組んでいる内容等も報告している		運営推進会議での内容が出席しなかった職員に伝わっていないため、ミーティング時等に全職員に伝えてほしい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と常に連絡、連携をとり、サービスの質の向上に取り組んでいる 年数回、市の職員が来所され、事業所の現状も見ている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			成年後見人制度を理解し、必要なときに支援ができるようにしていきたい 言葉の意味がわからないため、勉強会を開いてほしい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解を深める 常識的に虐待は禁と理解しているが、中に入り込んだ虐待防止法について勉強していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションを大切にし、その人の思いをじっくり聞くようにしている 常に利用者の話を傾聴する姿勢に務め、不満、苦情等に対しミーティング等で話し合い、解決策を考えている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理、健康状態、個々にあわせた報告 家族と密に連絡を取り合い、健康状態、その他個々にあわせた報告を実施している		ケース記録を見ていただき、その都度サインをいただく 金銭管理については出納伝票等に記入し、家族にサインをいただけると良い 職員の異動、退職等については家族に報告はしていないので、聞かれる場合もあり、聞かれる前に報告をすると良い
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には家族と話し、また運営推進会議にも積極的に参加していただけるよう声をかけている 苦情、要望等はミーティングで話し合い、反映させている 家族には何でも言っていただけるような雰囲気作りをしている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、個別面談で職員の意見を聞く機会を持っていますが、不満は言い難い部分も多いので把握し切れていない可能性もある 月1回のミーティングだが、必要があれば臨時に行うこともある		勉強会を定期的に行っていく
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている 勤務表ができあがった時点で職員間でさらに話し合い、お互いが私生活を大事にしながら家族や利用者の希望、要望等にも応えられるような勤務調整を行っている		管理者は状況に応じた対応ができるようにシフトに入っていない
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			離職については現在、家族と利用者には話してはいない。 訪問されたときに家族が迷わないように離職したこと、離職する前に伝えた方が良いと思う。 利用者には、職員がいなくなったことでショックを受けないように言葉かけに特に配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			研修を受ける機会の確保
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			他グループホーム等への見学、同業者との交流、研修会を行っていきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる			勤務時間中も気分転換ができる休憩室を確保したり、職員同士が仕事中でも休憩し、気軽に会話ができる時間があるといい 1勤務あたり、30分でも休憩が取れるよう工夫していきたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			向上心を持って働けるような職種能力評価をしてもらいたい
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者、ケアマネの2人で事前面接を行い、入居前の生活状態を把握し、本人の思いや希望を理解するよう努めています 入居時は特に関わる時間を多く作り、少しでも入居後の不安をなくす努力をしている		事前面接時の本人の印象や性格等も含めながら入居生活を想像していく 本人の生活状態を見て本人の思いや希望を理解して取り組んでいきたい
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が求めていることを理解し、本人がどのようにホームで過ごして欲しいかを把握しています		家族と本人の信頼関係を把握しながら事業としてはどのような対応ができるかを話し合っていきたい 家族の求めていることや本人の不安なことなどを聞いて取り組んでいきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前、契約時、その後の家族の訪問時に本人、家族からその時点での要望などを聞くようにしている。 グループホームのサービスの利点や不利益、他のサービスの利点、不利益を紹介して、できるだけ自身で決定していただけるようにしている。		まだ、初期対応がしっかりとできていなかったり、利用者や家族が要望を言い切れなかったりすることもあるので、聞き出せるように話しを進めていったり、頻繁に声をかけていきたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人が事前に見学をし決定している 帰宅願望の強い方はそれまで関わっていた関係者に来ていただき、徐々に慣れていっていただくように工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であると言うことを常に頭におき、教えていただいているということを伝えながら、本人の思いを共感し、利用者から学ぶ姿勢で接している 常にスタッフと利用者という立場ではなく、一人の尊敬すべき人間という意識を持ち接するよう心がけている 一緒にできることはできるだけやり、支援している		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人を家族の代わりに支えているという思いから常に連絡を取り合うようにしている 来所時に声をかけ、利用者の様子等を伝えている 家族の思いも十分受け止め、利用者の様子に変かがあればすぐに伝えるようにしている		家族とは可能な限り密に連絡、交流を行い、共に利用者が穏やかに生活していただけるよう話し合っていきたい 利用者を支えるために家族と同じような思いで支援しているということを伝えていきたい 家族は事業所に安心して任せてくれているが、すべての事柄について任せっぱなしにならないように分担していきたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを進めたり行事には家族の方にも一緒に参加していただけるよう案内文をだしている		行事に誘ってはいるが、仕事、家庭の都合等でなかなか参加していただけない 普段の訪問も少なく、利用者の中で差が出てきている 今以上に働きかけが必要と思う
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			馴染みの人や場所に行くには遠いこともありなかなかできないが、家族の協力も得ながら可能な範囲内で支援していきたい 馴染みの場所が近辺ならば、ドライブコースなどに入れて行けるように工夫したい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係がうまくいこう職員が調整役となり支援している 日々の利用者の言動を観察し、それを元により他の利用者の方との交流が増すように声かけ、レクリエーションの企画を行っている 気分や感情で変化することがあるため、見守りを行いながら利用者同士の関係が円滑に行くように働きかけている 居室で一人きりにならないように配慮している 気の合わない利用者同士がいたら食事の時の席の配置換えもやっている		利用者同士しかわかり合えないこと、支え合えないこともあるのでこういうのを職員が気づき、職員も一緒になって支えていけるように取り組んでいきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方に家族と移動先の事業所に許可をとり会いに行っている 他の事業所にも変わってもこちらの事業所での生活状態が伝えられるようにしています		他の事業所へ移られた方に会いに行ったり事業所の行事に来てもらうと良い
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情などから真意を掴み、困り事がないように把握に努めている 常に傾聴の姿勢やミーティングの開催 一人一人の思いや希望を把握し実現しようと思うが実現できないことが多いため、困難な場合は本人に納得していただけるように話しをしている		一人一人の思い、暮らし方の希望に応えていき、本人と職員だけで困難な場合、家族とも協力しながら本人の意志をくみ取れると良い
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーなどの記録、家族からの情報、本人からの話などを通して経過の把握に努めている センターシートを活用し、一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方の情報を収集しています		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活のリズムを理解し、食事の摂取量、行動、話し方を全体的に把握している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族には思いや意見を聞き、それを職員間で共有し合い、個別の介護計画を作成するため職員全員でモニタリングを行っている ミーティング(定例、緊急)		より家族、医師との連携を密にしていきたい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、3ヶ月毎の見直しを基本とし、急に状態が変化したときには早期検討、見直しを行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の様子や本人の言葉、エピソード等を記録し、職員の気づきや状態変化も記載し、職員間の情報共有を行っている 特に変化があった場合は細かく記録するよう心がけている 食事摂取量、排泄回数などの身体的状況も記載できるようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設に小規模多機能型居宅介護施設があるため、一時的に気分転換も兼ねて遊びに行ったりしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方の協力を得なければいけないような問題があったときは協力を得ている 消防、小中学校、図書館等の地域資源を活用している		地域との様々な接点を見だし、ボランティアへの協力を呼びかけると良い 運営推進会議以外で定期的なホームの状況報告や意見交換ができると良い
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			運営推進会議に市高齢福祉課職員だけでなく、地域包括支援センター職員も参加できるよう声をかけていきたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者からのかかりつけ医での医療を受けられるよう家族と協力し、通院、訪問診療に来てもらっている 基本は家族付き添いの受診だが、遠方の方など家族の状況により、職員が付き添いをし受診している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関が脳神経外科医師であり、2ヶ月に1度の受診時に診断情報について指示や助言をもらっている		地域の中で認知症を専門とする方を探し、相談、指示、助言が頂けると良い
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、毎日のバイタルチェック、入浴時の前身観察など常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている 看護職員に指示、アドバイスを受け、健康管理に努めている 介護職員が自分の判断だけで健康管理をするのではなく、必ず看護師に聞くようにしている		今後も取り組んでいきたいが、常勤の看護師がより求められると思われる
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている 家族とも情報交換をしながら早期退院、その後の支援に向けてアプローチしている		重度化に伴う意志確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行い、話し合う機会を持つ必要がある
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			重度化や終末期についてのケアは、契約時に家族と話し合い、できるだけ本人、家族の要望に沿うように行っているが、現実には、医療行為が関わってくると病院に任せなければ行けない状況となってしまうので、医療連携を強化し、できるだけホームで長く暮らしていただけるような方針を作っていきたい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている			家族、医師との話し合いの元、できるだけ長くホームで生活をしていただけるよう支援しているが、医療に関してはまだ弱い部分があるので、もう少し医療連携を強化していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、これまでの暮らしの継続性が失われないようにアセスメント、ケアプランや支援状況等を手渡し情報交換を行っている		今後も取り組んでいきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ミーティング時に職員の意識向上を図るとともに日々の関わり方の対応の徹底を図っている</p> <p>裏紙等を使用する場合は、必ずチェックをし、個人情報漏洩防止に努め、個人情報の書かれた捨て紙等は裁断機をしようしている。</p> <p>職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調が利用者のプライバシーを損ねるものになっているときがたまにある</p>	<p>ミーティングや勉強会で職員の意識向上を図ると共に日々の関わり方を管理者が点検し対応の徹底を図っていききたい</p> <p>知らず知らずのうちに気分を損ねてしまうような声かけをしてしまうことがあり、ミーティング時に確認しあえると良い</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者にあわせて声をかけ、職員が決めたことを押しつけるようなことはせず、時間はかかっても自己決定していただけるよう場面を作っている</p> <p>食べたいメニューを聞いたり、水分補給時の飲み物なども選んでいただけるよう支援している</p>	<p>利用者の希望、関心、思考を見極め、それを元に日常の中で本人が選びやすい場面作りをしていきたい</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>事業所の業務のスケジュールに利用者の生活が合わされている場合もあるが、一人一人の体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。しかし、時には職員の都合を優先してしまっているのでは？</p>	<p>職員の決まりや都合を優先してしまうことがまだまだあるので一人一人が本来持っているペースや望んでいるペースに合わせた暮らしの支援ができるよう、常に職員同士で話し合い、改善ができるよう務めていきたい</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>定期的にホームに理容師に来ていただき、整髪をお願いしている</p> <p>理容は、本人の希望により行っている</p> <p>入浴後の髪の設定、外出時の化粧などを行っている</p> <p>不十分なところはさりげなく直すよう支援している</p>	<p>それぞれの身だしなみやおしゃれなどを望む店等に行けるよう取り組んでいきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と利用者が個々の力を活かして一緒に食事作りをし、旬の食材などを使い下ごしらえ、盛りつけ、片付けなど利用者と一緒にしている</p>	<p>今以上に利用者の方には可能な限り食事作りように参加できるよう取り組みたい</p> <p>好みを聞き取り、献立に入れられるようにしていきたい</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>タバコを嗜まれる方は火の元を考え職員が利用者の希望時に渡し、他の方の迷惑にならないように喫煙場所で楽しんでいる</p> <p>お酒は日常的に楽しめるように支援していない</p> <p>現在は正月のみで、制限している部分もある</p>	<p>こういった形で何処まで支援できるかを話し合っていきたい</p> <p>お酒やタバコやおやつは職員管理の下、希望されたときに差し上げている</p> <p>とても難しいことだが、見直しが必要な点がたくさんある</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって声をかけて誘導する 失敗をしてしまったときには極力本人が傷つかず、周囲に気付かれないように手早く更衣介助を行っている		トイレへの誘導をする場合はあからさまに周りに聞こえるように誘導するのではなく、耳元でさりげなく声をかけて羞恥心を余分に持たせないような声かけ、誘導ができると良い
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を職員が決めている 入浴を拒まれる方には、時間を置いて声をかけ直してみたり、再度拒まれる方には次の日に入浴をしていただくようにしている 順番は平等に入浴ができるように順番を変えて入浴していただいている		今後、利用者の希望する時間に入浴ができるよう検討していきたい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている 一人一人の体調や希望等を考慮してゆっくり休息がとれるよう支援している 昼間でも疲れがみえる方には休んでいただいている 昼夜逆転をしないように生活リズムを整えられるよう支援している		夜間の安眠のため、日中の活動を外出やレクなどを取り入れて生活リズムを整えていきたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、ドライブをしながら喫茶店、道の駅、買い物などの外出利用者個々の得意とする分野と一緒にできる仕事又は自信が持てることを促しそれを楽しみと感じていただけるよう声かけ、誘導している 頼み事をしたときには必ず感謝の言葉を伝えるようにしている		日々話し合い、いろんな企画を立てて実行していきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所内でのトラブルを防ぐため、少額のお金を持っている人もおられ、個々にあわせて支援している 外出の際は家族から事業所が預かったお金を利用し、個人個人で財布を持っていただき、ご自身で支払をしていただきます		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	同じ利用者ばかりにならないように、天気や本人の気分や希望に応じて日常的に散歩、買い物、外食、喫茶店、ドライブ等に出かけている 病院へ薬をもらいに行くだけでも一人でも多く外出し、外の新鮮な景色を見て気分転換をしていただけるようにしている		より希望に添う形がとれるようきめ細やかな体制作りをしていきたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々の思いを実現するために職員全員で検討し、支援に繋がっている		もっと家族と外出などをしていただけるように勧めていきたい 以前は計画、実行をしていたが、ここ1年は実行されていないので、これから計画をし、実行していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいとき、事前に家族の理解が得られれば支援している 手紙の支援はしていない		利用者本人が家族に手紙を書いて出せるような支援があるとよい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは定めておらずいつでも都合のいい時間に来ていただけるよう配慮しているため、常識の範囲の時間内で訪問していただいている		今以上に家族にはホームに来ていただきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直接的な身体拘束はもちろん、鍵をかけないケアもしっかりとじっこうされていが、意識統一、共有認識を持ってケアができていない部分がある		身体拘束に関する勉強会を事業所内で実施していききたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら声をかけたり一緒について行くなど安全面と自由な暮らしに配慮している 利用者につき添う際には必ず公用携帯電話を持ち、利用者には配慮しながら事業所と連絡を取っている 自宅と変わらず、夜間のみ施錠を行っている		近所の方にも理解を求め、見守り、声かけや事業所への連絡をしてもらえる関係を築いていきたい
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は作業を行いながら全員の状況を把握するよう努めている 夜間は数時間毎に利用者の様子を観察し起きたときにすぐ対応できるよう居場所を工夫している		昼夜共に職員が利用者を見守りやすい位置にいて、利用者の様子を察知できるように居場所を工夫していきたい
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁などは台所内に置き、特別なところに隠して片付けるようにはしていない		利用者の状況に合わせて注意が必要な物品は職員が把握し、管理する
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	主に見守りだけが体操、散歩等体を動かすことも行っている 事故やヒヤリハットに関する報告は職員間で共有し、事故防止策を検討している		勉強会の開催 予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫をする

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応時についてのマニュアルがある		勉強会の開催 救急救命法等の学習や訓練を定期的に行う
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の協力を得て、避難訓練(火事、地震災害)を行っている		避難訓練等を定期的に行う
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている			予測されるリスクをアセスメントし、家族に対し説明する
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を看護職員が中心となり把握しており、食欲、顔色、様子等の変化が見られたときには、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけ、状況により医療受診に繋げている 情報は職員間で共有している 入浴時には前身の状態を観察し、変化がないか確認している		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、処方箋用紙を個人ファイルに挟み職員が内容を把握できるようにしているが、専門的な部分で理解、把握できない以内部分もある 日にち、服薬のタイミングなどをチェックし、服用していただいている 服薬は必ず見守りをし、服用できたかを確認している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取の声かけ 繊維質の野菜、果物の摂取による自然排便を心がけている 本人の訴えがある場合は薬で対応する場合があるが、看護師に相談して決定している		引き続き、自然排便を促す工夫をしていきたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内に違和感がある場合は訪問歯科医に診察をしていただき、各食後の口腔ケア、就寝前の義歯洗浄の見守り、一部介助をしている		口腔内の異常を早期に発見し、早期治療に心がけています

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった摂取量を考え、食事摂取量を記録し共有、今後の参考となるようにしている		医師等の連携を図り、きめ細やかな支援をしていきたい
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生物などはその日に買い物をするようにしている まな板、布巾等は漂白し、清潔を心がけている 賞味期限のチェックも行っている 特に台所の清潔、衛生は職員間で取り決めをし、実行している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花などを生けて、明るい雰囲気が出せるよう心がけている 玄関に職員の写真を貼り、初来所の方でも名前と顔が一致するようにしてある プランター、ベンチなどを置き、入りやすい玄関になるよう工夫している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の発翰の様子や冷えなどに注意して調節するようにしている フロア、トイレの換気扇、居室の換気扇も利用している 毎日の清掃で清潔にし、冷暖房に頼りきりにならないよう、自然の風を入れている		生活感や季節感を採り入れて居心地よく過ごせるような工夫をする
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人数分座れるソファを準備し、リビングでの居心地の良い空間を作っている 冬場は和室にこたつを出して利用していただいている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	家族が持ってきてくれた壁飾り、写真等を飾っている		使い慣れた馴染みの物がある部屋にする
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	個人の体感温度などを考慮し、調整している 季節に応じて外気温と大きな差がないように配慮している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	利用者の状態にあわせて手すりを増やし、浴室、トイレ、廊 下などの居住環境を見直し、安全確保と自立への工夫をし 続けている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る			混乱や失敗が生じた場合は、状況あわせて環境整備に務 める
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関先のベンチに腰掛け、花を見ながら一休みできるように しているプランターを使い、居室より花を見ていただけよう に工夫している		さらに検討していきたい

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・管理者が勤務表を作り、その後職員間で話し合い、足りない日をカバーし合い利用者が1日1日を充実して過ごせるよう職員全員で日々の生活全般に関して考え、取り組んでいる。
- ・地域との交流について交流センターを中心として地元地域の方との毎日の交流及び保育園、小中学校とのお互いの訪問があり、認知症施設について多大な理解をいただいている。
- ・最後まであきらめない介護としてグループホームだけの生活ではなく、本人が何処でどのように過ごしたら一番安心、満足していただけるかを職員全員で検討し、グループホーム職員でありながらも、在宅での生活も視野に入れながらケアマネ・家族と共同して生活支援を行っている。
- ・職員全員の協力体制として利用者だけでなく、職員お互いのことも考え合い、気持ちよく仕事に臨めるよう声を掛け合い職務に精励している。